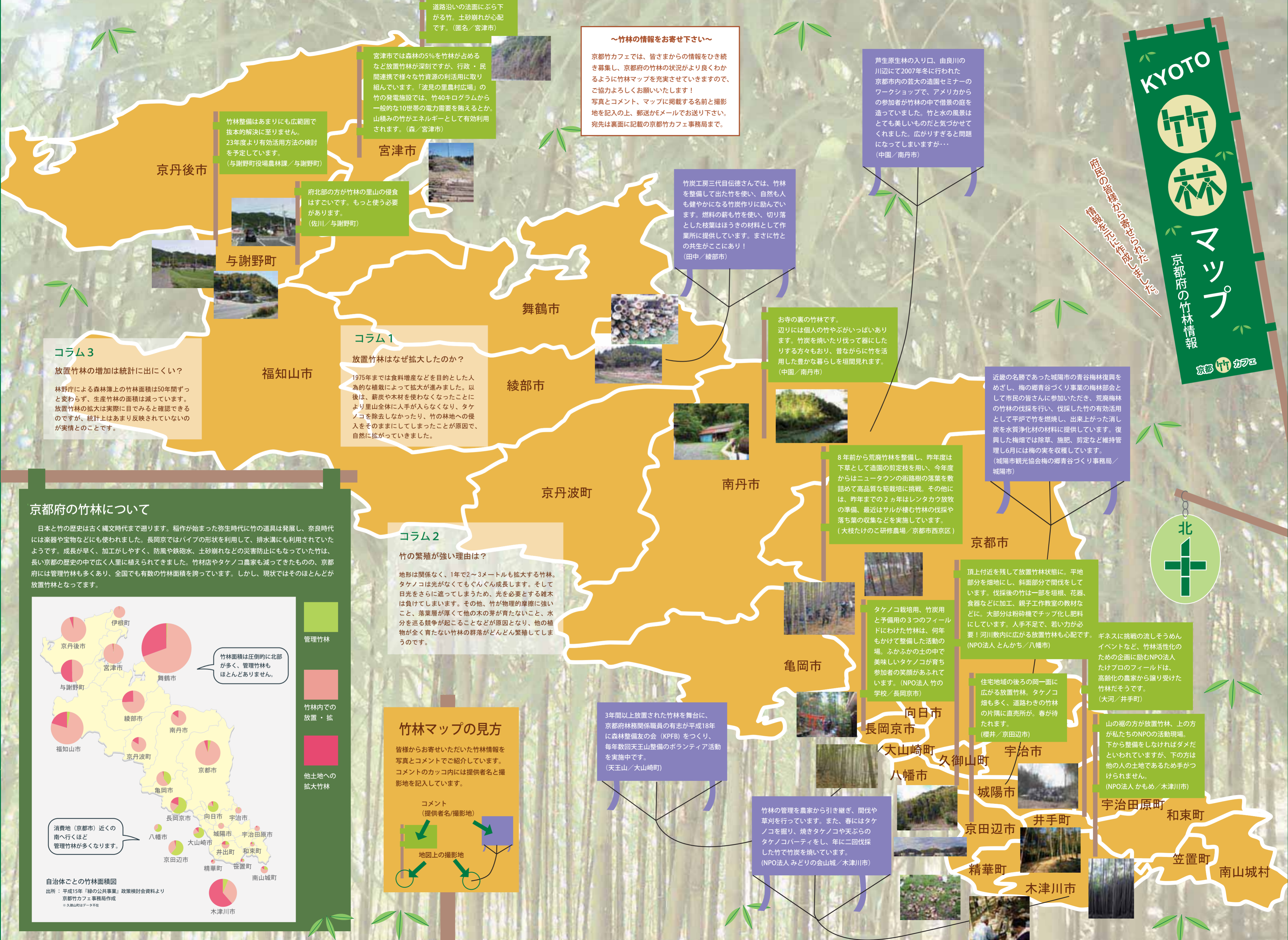


KYOTO 竹林マップ

京都府の竹林情報

京都竹カフェ

定評ある「竹林の文化」を
 京都府に広げよう



～竹林の情報をお寄せ下さい～

京都竹カフェでは、皆さまからの情報をひき続き募集し、京都府の竹林の状況がより良くなるように竹林マップを充実させていきますので、ご協力よろしくお願いたします！

写真とコメント、マップに掲載する名前と撮影地を記入の上、郵送かEメールでお送り下さい。宛先は裏面に記載の京都竹カフェ事務局まで。

芦生原生林の入り口、由良川の川辺にて2007年冬に行われた京都市内の若大の造園セミナーのワークショップで、アメリカからの参加者が竹林の中で借景の庭を造っていました。竹と水の風景はとても美しいものと気づかせてくれました。広がりますが問題になってしまいますが… (中国/南丹市)

竹炭工房三代目伝徳さんでは、竹林を整備して出た竹を使い、自然人も健やかになる竹炭作りに励んでいます。燃料の薪も竹を使い、切り落とした枝葉はほうぎの材料として作業所に提供しています。まさに竹との共生がここにあり！ (田中/綾部市)

お寺の裏の竹林です。辺りには個人の竹やぶがいくつかあります。竹炭を焼いたり伐って器にしたりする方々もおり、昔ながらに竹を活用した豊かな暮らしを垣間見れます。 (中国/南丹市)

近畿の名勝であった城陽市の青谷梅林復興をめざし、梅の郷青谷づくり事業の梅林部会として市民の皆さんに参加いただき、荒廃梅林の竹林の伐採を行い、伐採した竹の有効活用として平炉で竹を燃焼し、出来上がった消し炭を水質浄化材の材料に提供しています。復興した梅畑では除草、施肥、剪定など維持管理し6月には梅の実を収穫しています。(城陽市観光協会梅の郷青谷づくり事務局/城陽市)

8年前から荒廃竹林を整備し、昨年度は下草として造園の剪定枝を使い、今年度からはニュータウンの街路樹の落葉を救済して高品質な菊栽培に挑戦。その他には、昨年までの2カ年はレンタルカウ放牧の準備、最近サルが棲む竹林の伐採や落ち葉の収集などを実施しています。(大枝たけのご研修農場/京都市西京区)

頂上付近を残して放置竹林状態に。平地部分を畑地にし、斜面部分で間伐をしています。伐採後の竹は一部を垣根、花器、食器などに加工、親子工作教室の教材などに。大部分は粉砕機でチップ化し肥料にしています。人手不足で、若い力が必要！河川敷内に広がる放置竹林も心配です。(NPO法人 とんかち/八幡市)

ギネスに挑戦の流しそめんイベントなど、竹林活性化のための企画に励むNPO法人 たけプロのフィールドは、高齢化の農家から譲り受けた竹林だそうです。(大河/井手町)

山の裾の方が放置竹林、上の方が私たちのNPOの活動現場。下から整備をしなければダメだといわれていますが、下の方は他の人の土地であるため手がつけられません。(NPO法人 かもめ/木津川市)

3年間以上放置された竹林を舞台に、京都府林務関係職員有志が平成18年に森林整備友の会 (KPFB) を作り、毎年数回天王山整備のボランティア活動を実施中です。(天王山/大山崎町)

竹林の管理を農家から引き継ぎ、間伐や草刈を行っています。また、春にはタケノコを掘り、焼きタケノコや天ぷらのタケノコパーティをし、年に二回伐採した竹で竹炭を焼いています。(NPO法人 みどりの会山城/木津川市)

竹林マップの見方

皆様からお寄せいただいた竹林情報を写真とコメントでご紹介しています。コメントのカッコ内には提供者名と撮影地を記入しています。

コメント (提供者名/撮影地)

地図上の撮影地

コラム1

放置竹林はなぜ拡大したのか？

1975年までは食料増産などを目的とした人為的な植栽によって拡大が進みました。以後は、薪炭や木材を使わなくなったことにより里山全体に人手が入らなくなり、タケノコを除去しなかつたり、竹の林地への侵入をそのままにしてしまったことが原因で、自然に広がっていきました。

コラム2

竹の繁殖が強い理由は？

地形は関係なく、1年で2～3メートルも拡大する竹林。タケノコは光がなくてもぐんぐん成長します。そして日光をさらに遮ってしまうため、光を必要とする雑木は負けてしまいます。その他、竹が物理的摩擦に強いこと、落葉層が厚くて他の木の芽が育たないこと、水分を巡る競争が起こることなどが原因となり、他の植物が全く育たない竹林の群落がどんどん繁殖してしまうのです。

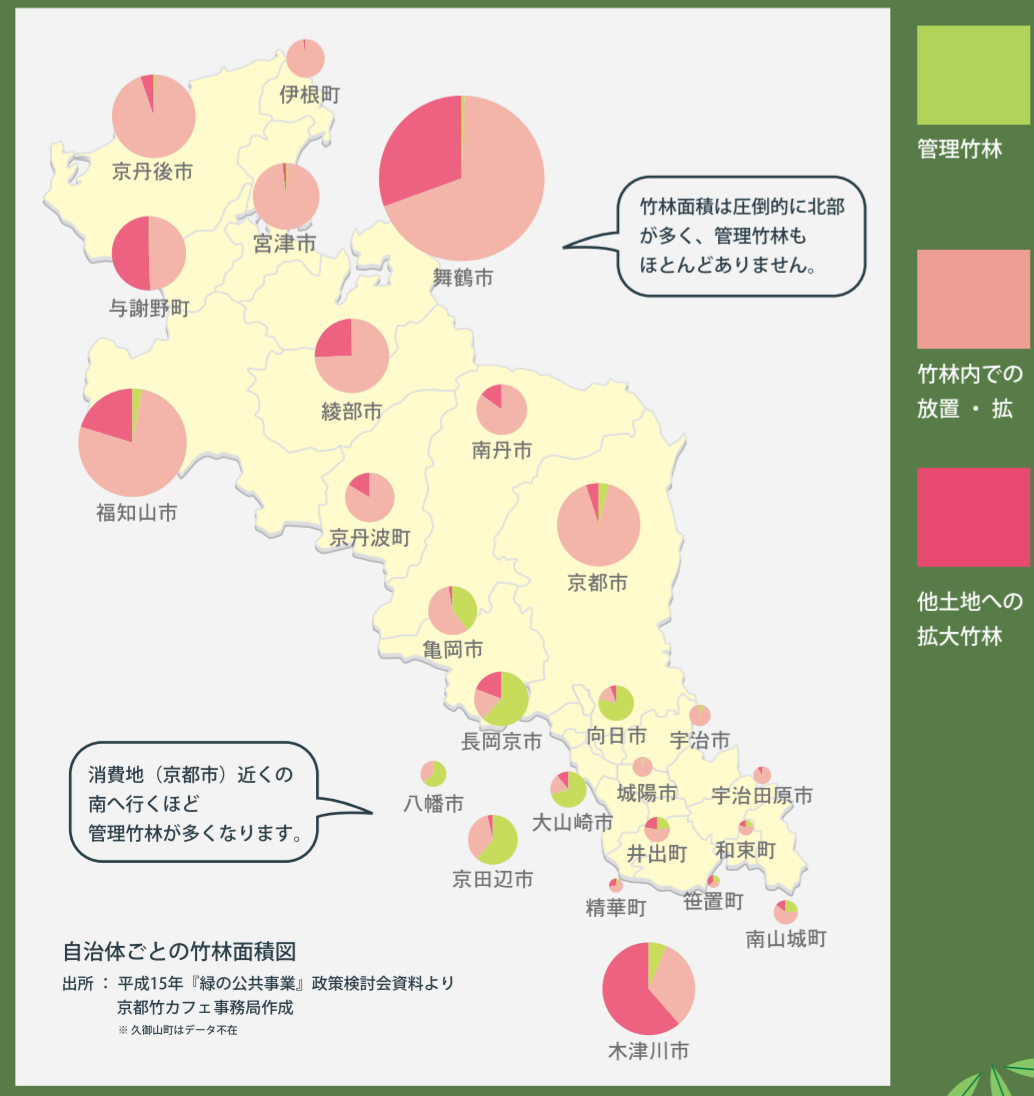
コラム3

放置竹林の増加は統計に出にくい？

林野庁による森林簿上の竹林面積は50年間ずっと変わらず、生産竹林の面積は減っています。放置竹林の拡大は実際に目でみると確認できるのですが、統計上はあまり反映されていないのが実情とのことです。

京都府の竹林について

日本と竹の歴史は古く縄文時代まで遡ります。稲作が始まった弥生時代に竹の道具は発展し、奈良時代には楽器や宝物などにも使われました。長岡京ではパイプの形状を利用して、排水溝にも利用されていたようです。成長が早く、加工がしやすく、防風や鉄砲水、土砂崩れなどの災害防止にもなっていた竹は、長い京都の歴史の中で広く人里に植えられてきました。竹材店やタケノコ農家も減ってきたものの、京都府には管理竹林も多くあり、全国でも有数の竹林面積を誇っています。しかし、現状ではそのほとんどが放置竹林となっています。



- 管理竹林
- 竹林内での放置・拡大
- 他土地への拡大竹林